

平成25年度 研究のまとめ

研究主題

「自分の考えを深め，適切に表現する力
を育てる国語科学学習指導」

～「読むこと」との

効果的な関連を通して～

1 研究主題について

「自分の考えを深める」とは、表現過程において、自分で筋道を立て論理的思考力を発揮すること、幅広く想像力、直観力を駆使することなどを指す。「適切に表現すること」とは、とりとめのない自分の思いや考えを整理して、相手や目的・意図、場面や状況に応じて、他の人に対して分かりやすいように内容を組み立てて伝え、意思の疎通を図ることを指す。本研究では、特に「書くこと」の領域を研究対象として取り組んだ。

2 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校は「折尾西地域の持つ特性をもとに、『知・徳・体の調和のとれた自主的精神に満ちた心豊かな子』の育成に努める。」という学校の教育目標のもと、「進んで学びよく考える子」を目指す児童像の一つとしている。

(2) 国語科教育の今日的な課題から

学習指導要領では、児童の思考力・判断力

・表現力等を確実にほぐくむために、各教科等の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述など教科の知識・技能を活用する学習活動を充実が求められる。この知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力を育むためには、以下のような学習活動が重要である。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する。
- ② 事実を正確に理解し伝達する。
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④ 情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

この学習活動の基盤は、数式などを含む広い意味での言語であり、その中心となるのは国語力である。しかし、国語力の育成は、国語科のみで行うのではなく、全ての教科等で取り組むことで、児童の言語に関する能力は高められ、思考力・判断力・表現力等の育成が効果的に図られると考える。このため、小・中・高等学校を通じ、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった言語活動を、発達の段階に応じて行うことが重要である。

国語科は、言語能力を直接的に育成するだけでなく、思考力・判断力・表現力も育成するという特徴があり、重要な役割を担っている。また、書くことの領域では、「自分の考えをもち、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現する能力」の一層の深化が求められる。重要な課題は、論理的に考え自分の力で適切に表現する能力を育成し、それを日常生活で、生きてはたらく力として身に付けさせていくことである。この能力の育成には、教師が、取り上げる言語活動（文章）の種類や特質を明らかにすること、そして、指導目標や指導内容を明確にし、適切に指導していくことが必要である。この指導によって、児童は、自分の考えや伝えたい思いを膨らませながら、適切に読み手に伝わる文章に表現していくことができる。

児童の考えは、読むことや話すこと・聞くことなど、他領域の言語活動との関連の中で育成される。特に、読む力と書く力とは、深層では同じ、思考力、判断力、観察力、感受性などを育てるものである。書く力は、読むこととの効果的な関連を模索することで、身に付けていくものと考えられる。

また、読むことと書くことの効果的な関連は、学習時間の無駄をなくし効率のよい学習を目指すこともできる。現在、読むことの単元を貫く言語活動としては、書く言語活動をゴールとしていることも多く、すでに深い関連をもちつつ双方の力を育てていると言える。

3 これまでの研究の成果と課題から

本校では、平成20年度から、国語科「書く力」の育成に焦点化した研究に取り組んできた。平成22年度より「自分の考えを深め、適切に書く力を育てる国語科学習指導」をテーマに、児童の「考えを深めて書く力」を育てることを目指して、言語活動（文種）に応じた指導と評価の充実を図りながら実践研究を重ねてきた。研究の着眼点の大まかな内容は以下の3点であった。

- ① 児童の生活や各教科等の学習とのつながりを考えた年間指導計画を作成する。
- ② 各学年で取り上げる言語活動（文種）の特質を踏まえた指導の重点化を図る。
- ③ 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だてを取る。

ア児童が自分の考えを深めて表現することができる単元づくり（指導過程）の工夫
 イ重点化した指導内容に応じ、自分の考えを深めて適切に書くための手だての工夫
 ウ作品を読み合い、お互いのよさ、よりよい表現を認め合い次の意欲へ結ぶ交流活動の工夫

昨年度までの研究の成果○と課題●を着眼に沿って示すと、以下の通りである。

平成 22 年度 (一 年次)	<p>自分の考え深め、適切に書く力を育てる国語科学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の生活や各教科等の学習とのつながりを意識し指導計画を作成した。 ○ 文種の特質を探り指導に生かすことで、目的・相手意識をもって書くことができた。 ○ 書きたいという思いを持続し、自分で表現を探る中で書く力を身に付けていった。 ○ 学年に応じてカードやシート、交流活動などの工夫をして、児童の思考を促し助けて表現活動に生かすことができた。 ● 身に付けた書く力の活用という視点で作成する必要がある。 ● 多様な文種による実践と指導の工夫を行う必要がある。 ● 児童の思いや願いを引き出した価値ある単元づくりを行う必要がある。 ● さらに、もっと考えを深めたり一人一人の考える力を高めたりする必要がある。
平成 23 年度 (二 年次)	<p>自分の考え深め、適切に書く力を育てる国語科学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の前面実施を受け、新教科書のもと、児童の生活や各教科等の学習とのつながりを考えて指導計画を作成した。 ○ 文種の特質を明確にしながら指導に当たることで、何の目的で誰に向けてどんな種類の文章で伝えるかを明確にして書くことができた。 ○ 書きたいという思いを持続し、自分で表現を探る中で書く力を身に付け、書いたことへの価値付けができるようになった。 ○ 重点化した児童のポイントを受け、学年に応じたカードやシート、交流活動を設定工夫し、児童の思考を促し助ける表現活動ができた。 ● 身に付けた書く力の活用という視点での見直し改善を行う必要がある。 ● 多様な文種、学年間の系統性、継続性を考えた指導の工夫を行う必要がある。 ● 引き続き、児童の思いや願いを引き出した価値ある単元作りを行う必要がある。 ● 各表現過程において、一人一人が自分の考えを深めて表現することはまだ不十分であり、途中意欲の低下、表現活動の停滞など、個別の支援を要する児童に対する児童の充実の必要性も感じた。さらなる指導と評価の一体化を図る必要がある。
平成 24 年度 (三 年次)	<p>自分の考え深め、適切に書く力を育てる国語科学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の生活、各教科等とのつながり、文種の特質を意識し指導計画を作成した。 ○ 文種の特質と系統性を探り指導に生かすことで、目的・相手意識をもって書くことができた。 ○ 書きたい実生活に生かしたい思いを持続し、自分で表現を差く中で書く力を身に付けていった。 ○ 児童の考えの深まりを見取り分析し、学年に応じてカード類やサンプル文、交流活動などの工夫をして、児童の思考を促し助けて表現活動に生かすことができた。 ● 他教科との関連、領域間の関連を意識して作成する必要がある。 ● それぞれの文種で、自分の考えをもつような実践と指導の工夫を行う必要がある。 ● 他教科・実生活に役立ち、児童の思いや願いを引き出した価値ある単元づくりを行う必要がある。 ● 各表現過程において、思考を助け深めるための手だてを工夫改善する必要がある。また、書いた文章の評価について共有化する時間の確保が必要である。

このように、児童の書く力は、思いや願いを膨らませ意欲を継続させて書く、幅広く取材を行う、構成の工夫をする、表現の工夫をして記述する、などの各表現過程に応じて、全般的な伸びが見られるようになった。

しかしながら、依然として、目的や意図に応じて自分の考えをもったり深めたりしながら自分の考えをまとめて書く力や、事象や意見等を関係付けながら書く力は、全学年ともまだ、十分に育っていないという課題があった。昨年度、児童の考えを深める力に焦点化して研究を推進した結果、次第に力が付いてはきたが、まだ、十分に一人一人の児童に定着しているとは言えない現状である。

原因は、相手や目的・意図に応じて自分の考えをもつことが困難であること、自分の考えを深める方法が分からないこと、自らその方法を探ることができないことなどが考えられる。また、自分の考えを形成するうえで基となる思いが小さいこと、自分の考えの深まりや変化が見えるようになされていないこと、そのため、自分の学習を振り返り、成長の自覚化をする手だてを工夫できていないことなどにも、起因している。

原因は、相手や目的・意図に応じて自分の考えをもつことが困難であること、自分の考えを深める方法が分からないこと、自らその方法を探ることができないことなどが考えられる。また、自分の考えを形成するうえで基となる思いが小さいこと、自分の考えの深まりや変化が見えるようになされていないこと、そのため、自分の学習を振り返り、成長の自覚化をする手だてを工夫できていないことなどにも、起因している。

4 本年度の研究仮説について

これまでの研究の成果と課題を受けて、本年度（4年次）次のような研究仮説を立てて取り組んでいくこととした。

国語科「書くこと」領域の学習指導において次の手だてを取れば、児童は自分の考えを深め適切に表現する力を身に付けるであろう。

- (1) 児童の生活や他教科等及び「読むこと」の領域との有効な関連を考えた年間指導計画を作成する。
- (2) 目的に応じて読み、書くことに生かす単元の構成を工夫する。
- (3) 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だてを工夫する。
 - ① 書く目的・相手・価値などを意識づけた単元設定の工夫
 - ② 文種に応じて効果的に読み、書くことに生かすための手だての工夫
 - ③ 重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて読み、適切に書くための手だての工夫
 - ④ お互いのよさ、よりよい表現を認め合い、次への意欲へつなげる交流活動の設定

5 仮説実証のための着眼点

- (1) 児童の生活や他教科等及び「読むこと」の領域との有効な関連を考えた年間指導計画を作成する。 **【着眼1】**

児童の生活及び読むことの領域の学習との関連を再度見直し、さらに工夫改善をして指導の充実を目指す。昨年度の課題を踏まえて見直し修正を行い、読むこととの有効な関連を図ることで、さらに確実な書く力に高まり、各教科等の学習や実生活で確実に活用できる

無理や無駄のない年間指導計画の作成を行う。

また、国語科学習の各領域の学習の効率化を図るために、読むこと領域との有効な関連を模索し、双方のねらいの達成を目指すための年間指導計画を作成する。読むことの欄を新たに付加し、特に関連的に取り上げる読むことの言語活動や読書活動の単元の概要および重点化した指導内容を示す。

チャレンジタイムにおけるスキル指導（視写）の内容は、個別指導や、知識や技能（スキル）の欄に連動させて計画を立てる。

(2) 目的に応じて読み、書くことに生かす単元の構成を工夫する。 【着眼2】

単元で取り上げる言語活動（文種）の特質を明確にし、指導の重点化を図って適切に書く力を育てるために、「目的に応じて教材を効果的に読み、文種の特質をとらえて、書く内容等（経験したこと、観察したこと、よきなどを伝える）に応じて書く」ことができるような単元構成の工夫をする。

児童が考えを深めるために、他領域の言語活動との関連の中で育成を目指すことで、さらなる効果を生むと考える。そのため、昨年度までの書くことの研究を踏まえ、単元を次の3つの群に分類し、単元を構成する。

A群：「書くこと」の基本単元

B群：「書くこと」「読むこと」の複合単元

C群：「読むこと」の基本単元に既習の書く力を生かす（活用型）

(3) 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だてを工夫する。 【着眼3】

① 書く目的・相手・価値などを意識づけた単元設定の工夫 【着眼3-①】

児童が「書きたい」という思いや願いをもち、自ら主体的に書く力を身に付けていくことができるようにするために、児童の生活や各教科等の学習とのかかわりの中で、相手・目的・価値などを意識づけた単元の設定や、活動の目的を設定したりする。併せて、そのために読むという目的も明確にできるようにする。（年間指導計画や単元指導計画の中での他領域との関連の有効性なども挙げる。）

② 文種に応じて効果的に読み、書くことに生かすための手だての工夫 【着眼3-②】

単元で取り上げる文種に応じて、文章の内容や表現形態などを読み取ることができる工夫をする。読み取りに際しては、目的や見通しをもって読むことを通して、「考えを深めて」読んだことを、書く活動に生かすことができるような手だてを工夫する。比べ読み、摘読、並行読みなどの読み方、およびサンプル構成表、読解シート、カード、付箋の活用、相互交流の活動の設定など、文種に応じた手だてをとるようにする。

③ 重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて読み、適切に書くための手だての工夫 【着眼3-③】

「考えを深めること」を各表現過程でどのように具体化するのかを分析する。各表現過程で、どのように児童の考えを深めて、主体的に、最終的な表現へと結んでいくかの具体的な分析、そのために有効な手だて（児童の考えを促すワークシート、視点をもたせて考え合う相互交流、その際の発問・指示、解釈の視点をもたせたサンプル文など）のさらなる工夫改善をする。題材選定カード、サンプル文の活用、一次作文の記述、相互交流の設定など、児童の実態や思考の流れに合った手だてをとるようにする。

④ お互いのよさ、よりよい表現を認め合い、次への意欲へつなげる交流活動の設定

【着眼3-④】

交流の観点を明確にして、書いたもののよさを認めたり確かめたりする活動を設定する。具体的に与える視点、助言の言葉など、自己評価、相互評価についても工夫する。

6 具体的実践

本年度,学年別に7実践に取り組んだ中から (添付資料), A群の2事例, C群の1事例, 全体的な児童の変容を中心に述べる。

(1) 有効な関連を考えた年間指導計画の作成

【着眼1】

14頁資料①は、本年度第6学年の年間指導計画(1学期分)である。本年度の年間指導計画の特徴としては、他領域である読むこと単元・言語活動と、学校生活・実生活との関連の欄を設けた。これによって、教師は、年間指導の見通しをもって取り組むことができると考えた。(別添資料)

また、作成する際、学習課程を再度見直し、指導の充実を目指すために、各教科との関連が明確になる年間指導計画を作成した(資料②, 2学期分)。これによって、国語科での言語活動で身に付けた力を、他教科で生かすことができると考えた。(別添資料)

平成25年度 6年 「書くこと」に関する年間指導計画

資料1

	○小教材	●基本単元	◎複合単元	◇総合単元	◆特設単元				
	「書くこと」基本単元・複合単元・特設単元					「読むこと」単元・言語活動	知識や技能(スキル)	各教科等との関連	学校生活・実生活との関連
	言語活動及び指導の重点						取り立て事項	単元名(教科等)及び言語活動	活動内容
4月	7 ○12さいの言葉を残そう 《日記文》 「つづけてみよう」① ・12さいの価値ある言葉を考え、書く事柄を収集し整理して書き残す。 重点(ア) ・書くことを決め、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。						・辞書を利用して調べて書く。	7 「自分史をつくらう」 (総合的な学習の時間) ・12さいの言葉を残す。(年間を通して)	・最上級生としての一年間のめあてづくり ・係のめあて作り ・一年生への話し方 ・学級会の司会 ・子ども読書の日の取り組み
5月							・敬語を使って短文を書く。 ・構成を考えて書く。	10 「運動会の招待状を書こう」 (特別活動) ・日時、場所、演技内容などの事柄を落とさずに、簡単に書いたり詳しくしたりして自分の思いが伝わるように書く。①	・運動会のめあてづくり
6月	◆感動する生き方を見つけよう 《推薦文を書く》 重点(カ) ・推薦したい本の内容や書き手に関連する本を重ねて読むなど、目的に応じて複数の本や文章を選んで比べて読むことができる。						・推薦文の書き方を理解する。 ・目的や意図に応じて構成の工夫をして書く。 ・簡単に書いたり詳しく書いたりするよさを理解する。 ・書き出し、まとめ	5 「歴史新聞を作ろう」①(社会科) ・これまで学んだ「大陸に学んだ国づくり」をもとにして分かったことや考えたことを区別して新聞を書く。	・ブル掃除でがんばったことを記録に残そう。 ・水泳学習でがんばりたいこと ・ドッジボール大会のがんばり
								4 「武士の世の中をさぐるう」(社会科) ・室町文化と今の暮らしの差異点や共通	

平成25年度 第6学年 教育計画一覧表 (2学期)

資料2

	A群 9	複合 10	A群 11	B群	
国語	<p>●修学旅行の思い出めぐり<推薦文> 「ようこそ、わたしたちの町へ」◎</p> <p>重点(エ・カ) ・引用したり、図表などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。 ・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。</p>	<p>◎わたしのための平和を考えよう<意見文> 「『平和』について考える」 「平和のとりでを築く」◎</p> <p>重点(イ・オ・カ) ・自分の考えを明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考える。 ・表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。 ・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。</p>	<p>◎わたしの夢、あこがれの仕事</p> <p>重点(エ) ・事実や感想・考えを区別し、詳しく書いたり簡単に書いたりする。 ・引用したり、図表などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。 ・事実や感想、意見などを区別するとともに、見た絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりする。</p>	<p>◎読み取り</p> <p>「この絵、</p> <p>重点(ア・ ・絵から感じ を見渡して書 ・事実と感想 絵の様子を</p>	
	<p>短歌を作ろう 「たのしみは」 「とんぼ」の俳句を比べる◎</p> <p>1学期 推薦文</p>	<p>熟語の成り立ち◎ 生活の中の熟語◎</p> <p>作品の世界を深く味わおう 「やまなし」 「イーハトーヴの夢」◎</p>	<p>●もの見方を広げよう<伝記> ~ 『鳥獣戯画を読む』~◎</p> <p>重点(ウ・オ) ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり事実や感想、意見などの関係を押さえて、自分の考えを明確にしながら読む。</p>	<p>漢字の広場◎</p> <p>「秋は、人恋し」◎</p>	
社会	<p>◎にぎわう都市 花開く文化◎ ◎まとめ◎</p> <p>江戸の文化のよさを紹介する。</p>	<p>◎近代国家へのあゆみ ◎ オリエンテーション◎ ◎ 新しい時代の幕開け◎</p>	<p>◎二つの戦争と ◎日本・アジア◎ ◎まとめ◎</p> <p>◎戦争から平和へ ◎ オリエンテーション◎ ◎ 戦争と人々の暮らし◎ ◎ 平和で豊かな暮らし◎ ◎ 目をさして◎ ◎ まとめ◎</p> <p>平和な世界をつくるための自分の考えを書く。</p>	<p>2</p>	
算数	<p>◎ 復習・準備運動◎ 7 速さ◎ ◎ 変わり方を調べて(1)◎</p>	<p>8 比例と反比例◎ ◎ 復習・準備運動◎</p>	<p>9 円の面積◎ 10 小数や分数の計算のまとめ◎ ◎ 復習・準備運動◎ 11 立体の体積◎</p>	<p>12 およその形と大きさ◎ ◎ 変わり方を調べて(2)◎ 13 場合を順序よく整理して◎</p>	<p>14 資料</p>

(2) 目的に応じて読み、書くことに生かす単元の構成を工夫する。 【着眼2】

単元で取り上げる言語活動(文種)の特質に応じて、文章の内容や表現形態を明らかにするために、サンプル文や資料、教材文を読み取り、書くことに生かす単元の構成を工夫する。下記は、6年単元「わたしの夢・あこがれの仕事」の学習計画である。

A群(「書くこと」の基本単元) 6年 わたしの夢・あこがれの仕事

- 将来の夢や仕事について話し合い、単元を設定する。
【サンプル文を読み、文種の特質や内容を確認する】
- 本や資料で調べたり周囲の人へインタビューしたりして、書く事柄を幅広く取材する。【資料を読む】
- 取材メモを整理し、全体を見通して効果的に組み立てる。
- 表現の効果を工夫して記述し、交流する。【サンプル文を読む】

本単元は、サンプル文や資料を読み、書くことに生かす単元の構成を工夫している。取り上げる調査報告文の特徴や書く内容を確認するために、導入段階でサンプル文を読む。調査報告文は既習であるため、文種の特質をすぐに想起し、取材の見通しをもつようにする。また、表現の効果や工夫に気付くように、構成段階で再度サンプル文を読み、構成の工夫を明確にするようにする。

取材段階では、自分の考えに合う書く事柄を集めたり、考えを深めたりするために、資料を、比べ読みをしたり摘読したりする。莫大な資料の中から、自分の考えに応じた事柄を読み取り、集めることは、効果的に書くために必要である。

下記は、3年単元「『食べ物へんしん図かん』を作ろう」の学習計画である。

B群(「書くこと」「読むこと」の複合単元) 3年 「食べ物へんしん図かん」を作ろう

- 食べ物に関心をもち、教材文を読み、学習計画を立てる。
- 教材文を読み、分かりやすい説明の仕方の工夫をとらえる。
- 「分かりやすい説明の仕方」を生かして、「食べ物へんしん図かん」を書く。【サンプル文を読む】
- 「食べ物図かん」にまとめ、読み合い、感想を交換する。

本単元は、教材文を読み、書くことに生かす単元の構成を工夫している。導入段階で、

教材文を読み、「食べ物図かん」を書く見通しをもつ。「読むこと」で教材文を読み、分かりやすい説明の仕方を理解し、説明のポイントをまとめる。これを生かして、自分なりの食べ物に関する図鑑を書くようにする。このような「読む」「書く」領域をつないだ一連の学習活動を構成することによって、読み取った内容を書くことに生かすようにする。

(3) 児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だてを工夫する。

【着眼3】

○ 低学年での実践（第2学年 生活文）

① 単元「見つけよう！おねえさんになったわたし、お兄さんになったぼく」～自分の成長のきろくを書こう～ **A群**

② 文種の特質および重点化した指導内容

<生活文>
 特質：経験したことの中から書くことを決め、分かりやすく伝える文章である。本単元では、成長を記録する文章を書く。成長して嬉しいと感じた事が読み手に伝わるように、簡単な構成を考えて書くことが求められる。
 重点化：(取材)今と過去の自分を比べて、成長したと思うことを集めること。
 (構成)「はじめ—中—おわり」の簡単な組立を考えて書くこと。

③ 目標

国語への関心・意欲・態度	○ 自分の成長を振り返り、一人一人の気持ちや経験を大切にして楽しんで生活記録文を書こうとする。
書く能力	◎ 今の自分と過去の自分とを比べて、おねえさん(おにいさん)になったと思うことを集めて、文章を書くことができる。 ○ 「はじめ(書き出し)-中(以前と比べてできるようになったこと)-おわり(今の自分の思い)」の簡単な組立を考えることができる。
言語についての知識・理解・技能	○ 主語と述語の関係に注意して書くことができる。

④ 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・ 自分の成長を振り返り成長の記録に載せる記録文を書こうとしている。	・ 自分が成長したと思う事柄を集めることができている。 ・ 集めた事柄から、書きたいものを選び、まとまりのある文章に書いている。	・ 主語と述語の関係に注意している。

⑤ 単元の指導計画（総時数8時間）

1 「わたしはおねえさん」の学習を想起し、自分の成長を生活記録文に書く学習の計画を立てる。	①
2 自分を振り返り、1年生の頃と比べながら、生活記録文を書く。	⑤
(1) これまで書きためてきたメモを、にたものに分ける。	
(2) 特に嬉しいものを友達と紹介し合いながら2つ選び、それぞれ詳しくするメモを付け加える。	
(3) サンプル文を読み比べ、以下の2つの観点から、自分のメモを見直し、書き加える。	
(4) サンプル文から分かりやすい組立を考え、集めたメモの組立を見直す。	
(5) 自分の成長を確かめながら、生活記録文を書く。	

⑥ 指導の実際

ア 書く目的・相手・価値などを意識づけた単元設定の工夫

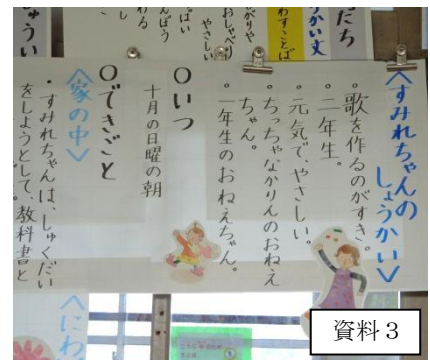
【着眼3-①】

本単元を中心は、生活科で書きためた自分の成長から知らせたい事柄を選び、読み手に分かりやすく伝える生活文を書くことである。

単元設定の工夫は、以下の通りである。

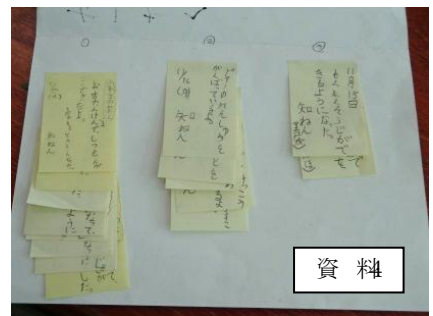
- ・ 単元導入時には、前単元の教材「わたしはおねえさん」の主人公の成長を読み、自分自

身の成長を振り返って感想を書いた学習を想起できるようにした（資料③）。また、1年生の時の担任や校長先生に読んでもらうことを知らせ、書く相手を明確にもつようにした。



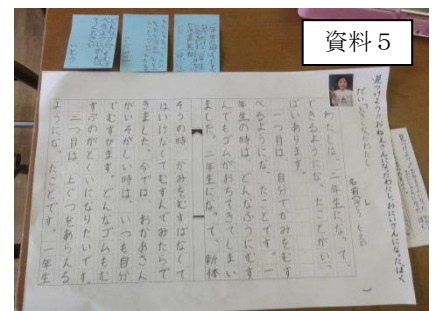
資料 3

・生活科の単元「あしたへジャンプ」で自分の成長を振り返ることを知らせ、「できるようになったカード」に自分が成長を感じていることを集めておくようにした（資料④）。これによって、明確な目的意識と、生活記録文を書くための見通しをもち、意欲の連続性を図ることができた。



資料 4

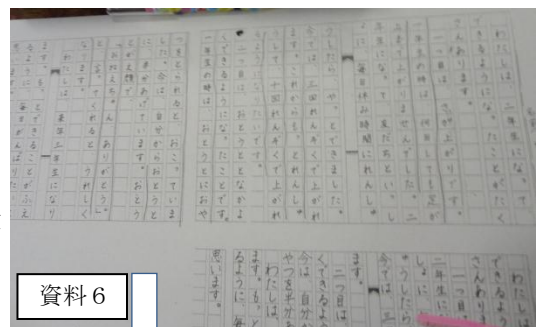
・終末に、書いた記録文を友達と読み合う活動を設定し、お互いの成長を認め合うことができるようにした（資料⑤）。また、1年生の時の担任や校長先生に読んでもらい、2年生になって成長したことを知ってもらい活動を設定することで、書く相手を明確にすることができた。



資料 5

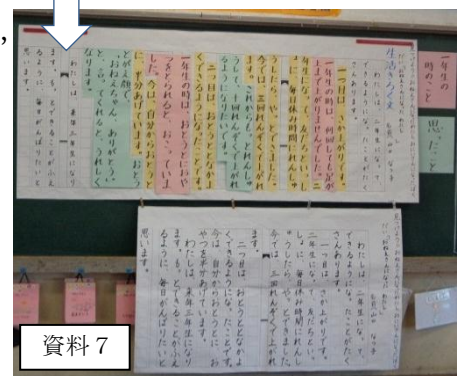
イ 文種に応じて効果的に読み、書くことに生かすための手だての工夫 **【着眼3-②】**

自分の成長が伝わる生活記録文を書くために、サンプル文を読むようにした。資料⑥は、児童に配布したサンプル文である。児童は個人で2つのサンプル文を読み比べ、違いからよさを見付けるようにした。このサンプル文を読み、自分で気付いたことをクラス全体で話し合い（資料⑦）、生活文の特質や、自分の成長を読み手に分かりやすく伝えるためのポイントについてまとめていった。より分かりやすく伝えるポイントを、①いつから②どうやって③どのくらい④その時の思い⑤数字の5つにまとめることができた。また、「はじめ（書き出し） - 中（以前と比べてできるようになったこと） - おわり（今の自分の思い）」など簡単な組立であることに気付くことができた。



資料 6

このように、サンプル文から分かった段落構成を、生活文を書くときに生かすようにした。



資料 7

ウ 重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて読み、適切に書くための手だての工夫 **【着眼3-③】**

<取材の段階> 目的・意図を明確にし、書くために必要のある事柄について考えを深める

・自分の成長に気付くようにするために、できるようになったことを振り返ったり、友達や家族に自分の成長したことを尋ねたりして、メモを書く活動を設定した。学校生活だけではなく、家庭の中の出来事を取り上げてよいようにしたところ、たくさんのメモを集めることができた。

・幅広く集めた事柄の中から5つのメモに絞り、それについて友達と話すことで、内容を膨らませるようにした。さらに、成長して特にうれしい事柄を2つ選ぶために、友達と観点を明確にして話し合う活動を設定したところ、2つ選び、その理由についても話すことができた。

<構成の段階>自分の成長が伝わる事柄を選び、話し合うことで考えを深める

・現在の成長を読み手に分かりやすく伝えるために、1年生の時の様子や現在の思いが書かれたサンプル文とそうでないサンプル文を用意し、読み比べるようにした。これによって、より分かりやすく相手に伝えるのにどんな内容が必要かを、考えることができた。

さらに、自分の組立シートを振り返り、必要に応じて追加取材をして書き加えることができた。1年生の様子や現在の思いを書くことによって、考えを深めることができた。

エ お互いのよさ、よりよい表現を認め合い、次への意欲へつなげる交流活動の設定

【着眼3-④】

お互いの成長や、自分の思いを伝えることの楽しさに気付き、互いに成就感をもつことができるようにするために、書き上げた生活文を読み合い、感想を交流する活動を設定した。付箋を使って一言感想を書くことによって、どの児童も抵抗なく書くことができた。付箋の数に偏りがないように、声掛けしたところ、ほとんどの児童に4・5人分の感想が集まった。自分の席に戻った児童は、付箋の感想を読んで嬉しそうにしていた。

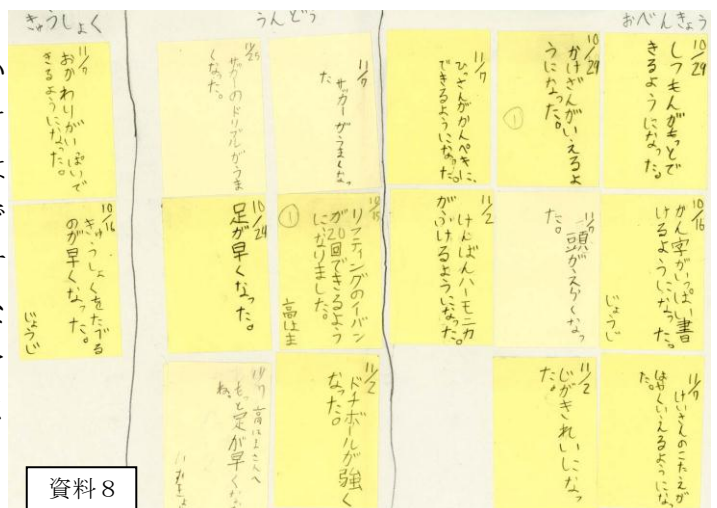
さらに、1年生の時の担任や校長先生に読んでもらい、認めてもらうことで書くことへの意欲を高めるようにした。後日、校長が文章を読んだ感想を話したことで、児童は書いてよかったという成就感とまた書きたいという意欲をもつことができた。

⑦ 児童の変容

A児は、書こうとするための材料を集め、伝えたい事に沿って選ぶことができるが、簡単なまとまりや順序を考えながら文章を書く力はまだ十分とは言えない。

<題材選定>

自分自身を振り返り、成長に気付くことができるように、「できるようになったカード」にメモを書く活動を行ったが、A児は、メモを書きためることがあまりできていなかった。そこで、成長したことを見つけあう交流活動を設定したところ、A児は自分の成長に気付きメモに書くことができた。また、家の人にインタビューをする活動も設定し、学校のことだけではなく、家庭の中の出来事についてもメモを集めた(資料⑧)。このような手だてによって、A児は自分自身の成長に気付き、今後の活動への意欲を高めていった。



<取材>

A児は、リフティングが「20回」できるようになったことを伝えたいという思いがあった。サンプル文を読むことによって、自分の成長をもっと伝えるためには、「数字など具体的なことを加えること」が必要だということに気付いた。そこで、自分の取材メモを振り返り、1年生の時の回数「14回」のメモや、目指す目標「30回」のメモを書き加えた（資料⑨⑩）。このように、サンプル文を基に再取材し、書く事柄を進んで集める姿が見られた。

<構成>

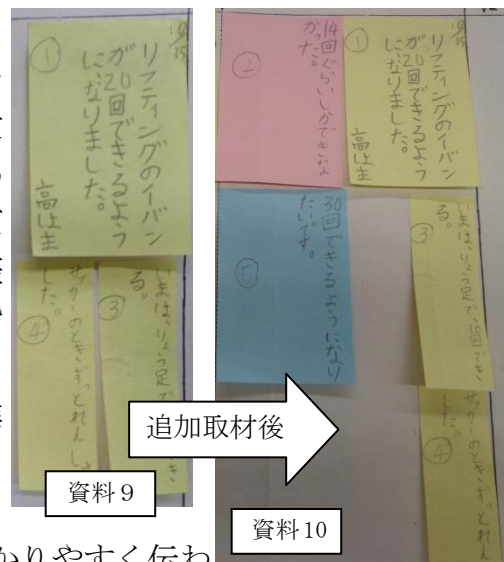
A児は、集めたメモをどの順序で並べると相手に分かりやすく伝わるのか悩んでいたが、友達や教師と対話することによって、並べ替えをすることができた。

<記述>

サンプル文を再度読み、メモを文章する書き方を話し合う活動を行った。自分の成長を分かりやすく伝えるには、メモに従ってそのまま書くのではなく、必要な言葉を付け加えたり、よりよい言葉に変えたりすることが大切だとポイントにまとめていった。A児も、ポイントに従い文章を書くことができた（資料⑪）。自分の成長を振り返り、分かりやすく伝える生活記録文に仕上げることができた。

<交流>

A児の作品を読んだ友達から「1年生の時からリフティングができるなんてすごいね。」「かけ算が全部言えるのを目指して、頑張ってください。」などの感想をもらい、A児は喜んでいた。また、振り返りには、「ほかの友達も、できるようになったことがいっぱいあってすごいなあと思いました。」とあり、お互いの成長を認め合うことができていた。



「できるようになったことがいっぱいあるぼく」
ぼくのできるようになったことは、いっぱいあります。
一つ目は、リフティングです。一年生のときは、十四回くらいしかできなかったけど、いまでは、りよう足で、二十回できます。サッカーのときずっと、れんしゅうしたらできるようになりました。つぎは、もっと、れんしゅうして、三十回できるように、なりたいです。
二つ目は、かけさんが、言えるようになったことです。いちばんむずかしかったのは、七の данです。一年生のときは、かけさんは、知らなかったけど。いまでは、七の данが九びょうで言えます。つぎは、九の данを言えるようになりたいです。
三年生になって、もっとできるように、なりたいことをふやしたいです。

資料11

○ 高学年での実践（第6学年 生活文）

- ① 単元「わたしの夢・あこがれの仕事」 **A群**
- ② 文種の特質および重点化した指導内容

<調査報告文>

特質：見聞きしたことや経験したこと、調査・研究を行ったことなどの状況や結果について、客観的な事実をもとに考えをもち、特定した読み手に分かりやすく報らせる文章である。

重点化：（取材）目的や意図に応じて調べた事柄を整理すること

（記述）自分の考えを明確にして、その考えを伝えるために、事実と感想、意見等を区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

引用したり図表やグラフなどを用いて書いたりすること。

- ③ 目標

国語への関心・意欲・態度	○ 自分の将来就きたい仕事を見付け、いろいろな方法で調べて進んで書こうとする。
書く能力	◎ 目的や意図に応じて必要な事柄を選び、カードを活用して整理したりまとめたりすることができる。 ◎ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。 ○ 引用したり、図表を用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことができる。
言語についての知識・理解・技能	○ 必要な語句について辞書を利用して調べることができる。

④ 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・自分の選んだ将来の仕事について、進んでいろいろな方法で調べまとめようとする。	・自分の従事したい仕事に関する情報を集めて、伝えたい自分の考えを明らかにして、小見出しを立てながら整理したりまとめたりしている。 ・保護者や友達が自分の考えを理解し共感できるように、事実と感想・意見などを区別して目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。 ・引用したり、図表を用いたりして、自分の考えが伝わるように書いている。	・意味の分かりにくい語句について辞書を利用して調べている。

⑤ 単元の指導計画（総時数 11 時間）

1 将来の夢や仕事について話し合い、本単元「わたしの夢・あこがれの仕事」を設定する。②
(1) 仕事のよさや特徴を話し合い、単元設定をし、見通しをもって学習計画を立てる。
(2) 自分の憧れの仕事（題材）を選び、調査報告文の特徴や書き方を話し合う。
2 本や資料で調べたり周囲の人へインタビューをしたりして、書く事柄を幅広く取材する。②
(1) 自分の憧れの仕事について、様々な方法で取材をする。
(2) 自分の考えを深め、書くために必要なことを考えながら、小見出しをもとに、調べた事柄を整理する。
3 取材メモを整理し、全体を見通して効果的に組み立てる。③
(1) 自分の考えが読み手によく伝わる内容になるように文章を組み立てる。
(2) グループの友達とアドバイスし合い、読み手がよく分かるように、取材内容の見直しをする。
(3) 再度、必要な事柄を取材する。
4 表現の効果を工夫して記述し、交流する。②
(1) 組み立てに従って、読み手に伝わるように下書きをし、見直しをする。
(2) 表記に気を付けて清書する。
5 完成した文章を読み合い交流し、本単元の学習をまとめる。②
(1) 完成した文章を友達と読み合い、交流し合う。
(2) 本単元の学習についてまとめる。

⑥ 指導の実際

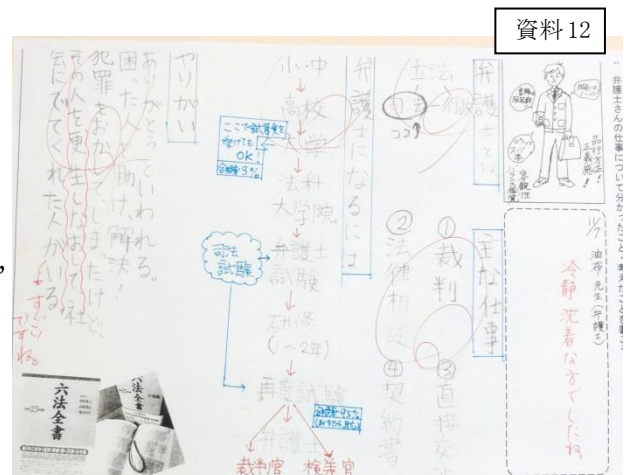
ア 書く目的・相手・価値などを意識づけた単元設定の工夫

【着眼3-①】

児童が自分の将来に目を向け「書きたい」という思いや願いを膨らませ意欲を高めるために、以下の手だてを工夫した。

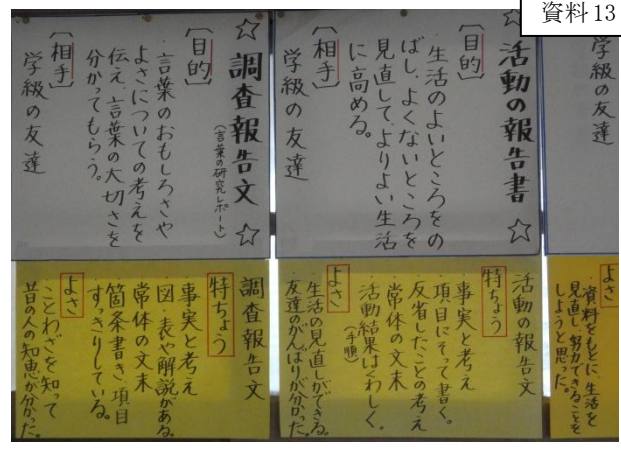
・職業に目を向けるようにするために、伝記や職業に関する本を教室に準備し、日常の読書活動を通して、仕事への興味・関心を高めておくようにした。

・仕事への憧れや願いをもつようにするために、導入時、弁護士さんや教師の仕事について話を聞く活動を設定した（資料⑫）。仕事のやりがいや苦労談、今後の展望などを聞き、社会で実際に働く人の思いに触れることができた。さら



に話し合い活動を通して、「自分の今の憧れの仕事についての考えをまとめ、友達や保護者に伝えてこれからの足がかりとする。」という目的・価値意識を明確にして単元設定をすることができた。

・書く意欲をかき立てるために、単元設定後、完成した文章を保護者に読んでもらい、メッセージをもらったり、本校の卒業記念タイムカプセルに入れたりするという計画を立てた。



イ 文種に応じて効果的に読み、書くことに生かすための手だての工夫 【着眼3-②】

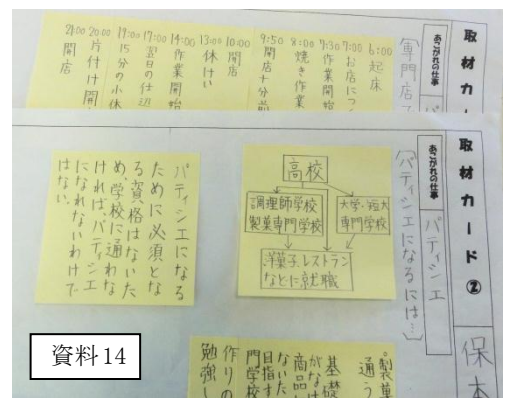
読み手が自分の考えを理解し共感できるような調査報告文を書くために、既習の読むことの学習で身に付けた読む力を活用するようにした。サンプル文を読む際、4年で学習した調査報告文のポイント（資料⑬）を提示しておくことによって、調査報告文の特徴をとらえながら、サンプル文を読み進めた。これによって、自分がどのような調査報告文を書くのかイメージをつかみ、見通しをもつことができた。また、既習学習「伝記を比べて読み推薦する」では、多読や摘読を通して目的に合った内容を読み取る力を身に付けた。本単元で、その力を生かし、読んだ本の中から活用できそうなものをカードに書いたり、読んだ部分に色分けした付箋を付けたりする活動を取り入れて、その後の書く活動（取材）でも役立つようにした。

ウ 重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて読み、適切に書くための手だての工夫 【着眼3-③】

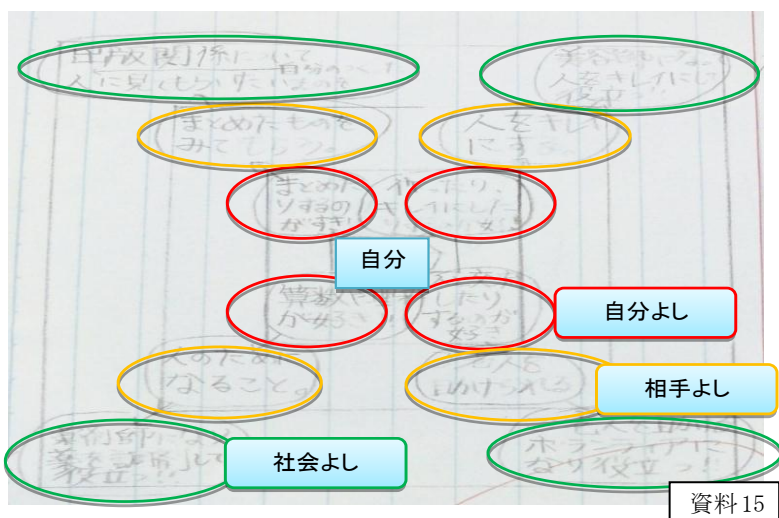
【取材・構成の段階】目的・意図に応じて書くために必要のある事柄について考える

選んだ仕事について、その役割や価値などを、幅広く調べて整理することができるようにするために、以下の手だてを工夫した。

・実際に働く人の思いや考えを取材するために、地域の方や保護者、教師など周りの方々へのインタビュー活動を取り入れ、本や資料では得られない事柄を集めるようにした（資料⑭）。

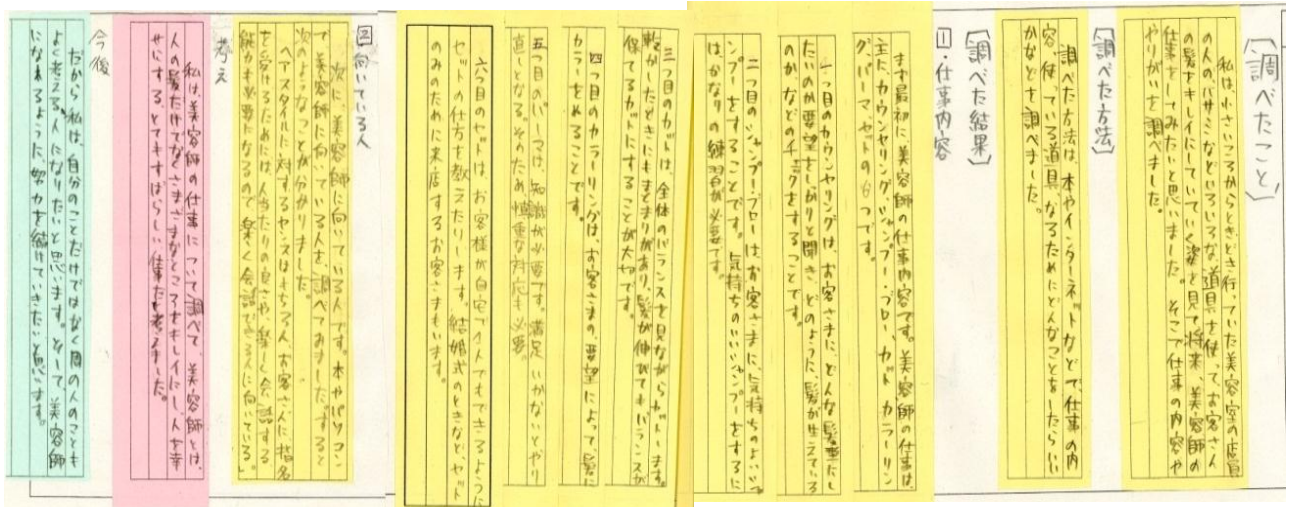


・多様な視点で事柄を集めるようにするために、「こころのノート」P93にある働く意味の視点「三方よし」（自分にとってよい点、相手にとってよい点、社会にとってよい点）を基に、仕事のよさを書いたり、仕事の具体的な内容や社会における役割、苦勞ややりがいなどを書き分けたりすることができた（資料⑮）。



- ・自分の考えを明確にするために、事柄を分類しながら構成メモを配置するようにした。取材カードを色分けしたり、小見出しを書き加えたりすることで、自分の考えについて付加したり精選したりしながら明確にしていった（資料⑱）。

資料16



自分の考えにつながる適切な事柄を集めるために、構成メモを説明しアドバイスをし合う活動を位置付けた。また、中学校との小中連携事業「社会人講話」の機会に再取材したことも構成メモに付け加えていった。

【記述の段階】自分の考えを伝えるための効果的な表現について考える

事実と考えを区別して、適切に書き、引用したり図表を用いたりして自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにするために、以下の手だてを工夫した。

- ・構成メモ（自分の考えや、考えを伝えるための根拠となる事柄などに小見出しを付けて、組み立て、図にして構造的に説明したもの）や構成表（記述カード貼付）を活用して、説明する活動を位置付けた。

- ・4名のグループで読み手の立場で読み合い、アドバイスをし合う活動を取り入れた。

エ お互いのよさ、よりよい表現を認め合い、次への意欲へつなげる交流活動の設定

【着眼3-④】

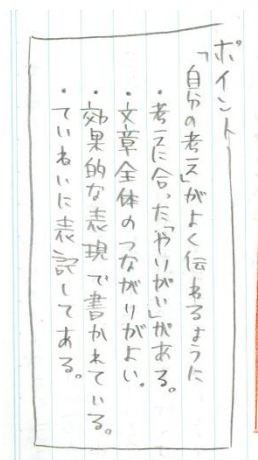
よさに気付き、よりよい表現を認め合うために、交流の観点を明確にした（資料⑳）。観点は、自分の考えの明確さ・事実と考えの書き分け・効果的な引用など、仕事の役割や価値など分かったことから自分の考えを深め、今後の展望につなげて書いているかとした。ノートを活用することで、よさを認め合うことができた。

⑦ 児童の変容

S児は、美容師の仕事に憧れ、幅広く調べて調査報告文を書いた。前單元までは、構成力や記述力は概ね満足できる状況であった。しかし、取材力に関しては、自分の既存の知識や身近な人々から得た情報から取材することはできるものの、インターネットや幅広い資料から事柄を集めて整理することには、課題の残る児童であった。

<題材選定>

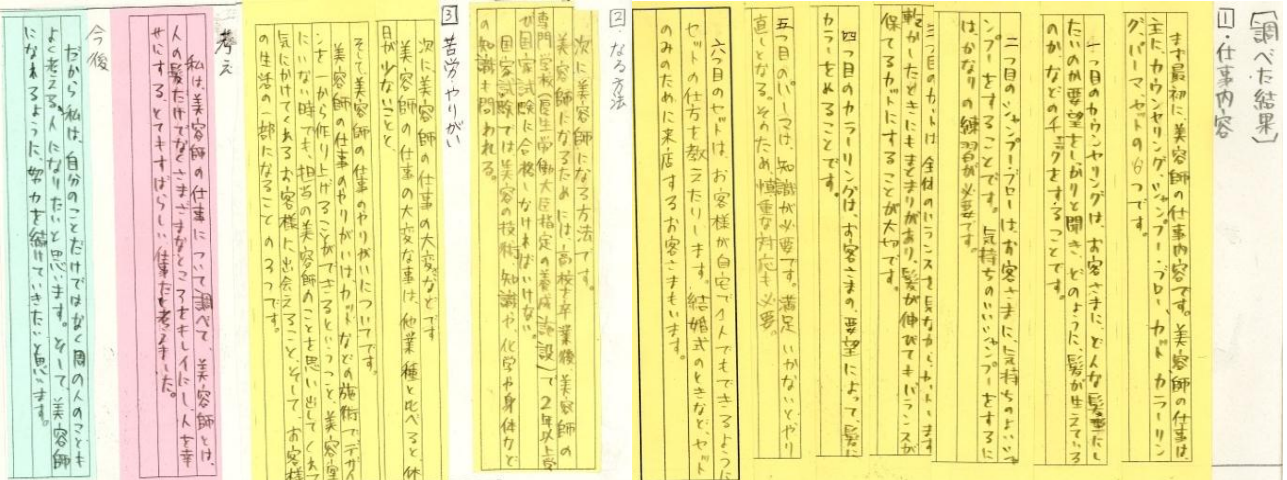
自分の関心のある仕事を挙げ、それぞれの仕事について、三方よしの視点を書き挙げて、自分の憧れの仕事（美容師）を選んだ。



資料17

<取材・構成>

本や資料で調べたり周囲の人へインタビューをしたりして、書く事柄を幅広く取材した。取材した事柄は、小見出しを付けながら取材カードに分類し整理していった(資料⑱)。構成では、構成表を見直し、再取材後、構成表を完成させた(資料⑲)。見直しの際に加えた「苦労・やりがい」のメモは、近く的美容院に行って、いつもお世話になっている美容師さんに実際に聞き取りをして、書き残した内容である。



<記述・推敲>

資料⑳は、S児の調査報告文である。

私のあこがれの仕事

私は、小さいころよく行っていた美容院の店員さんが、はさみなどを使って、お客さんの髪をきれいにしていくな姿を見て、美容師の仕事にあこがれました。そこで、美容師の仕事について調べてみました。調べた方法は、本やインターネットなどです。

まず、美容師の仕事内容です。美容師の仕事は主に、カウンスリング、シャンプー、ブロー、カット、カラーリング、パーマ、セットの六つです。

一つ目のカウンスリングは、お客さんにどんな髪型にしたいのか要望をしっかりと聞き、どのように髪が生えているのかのチェックをすることです。

二つ目のシャンプー・ブローは、お客さんが気持ちいいようにすることが大切です。そのためには、かなりの練習が必要だそうです。

三つ目のパーマは、お客さんの知識が必要で、お客さんが満足いかないとやり直しになります。

六つ目のセットは、お客さん自宅で一人でもできるように、セットの仕方を教えることもあるそうです。

次に、美容師になる方法です。美容師になるには、高校を卒業後美容師の専門学校で二年以上学び、国家試験に合格しないとけません。国家試験では、美容の技術、化学や身体などの知識も問われるそうです。

最後に、美容師の仕事の大変なこと、やりがいです。大変なことは、他業種と比べて、休みの日が少なく、週に平均二日ほどです。ほかにも、一日中立ち仕事の日も多くあるので、ひざや腰を痛めてしまうことがあるそうです。また、時には、難しいお客さんちいて、お客さんへの気苦労が絶えないことだそうです。

やりがいは、お客さんの生活の一部になれることで、美容室にいないときでも、担当の美容師のことを、思い出してくれるお客さんに出会えることだそうです。

これらのことから、私は、美容師の仕事は、人とコミュニケーションをとる力やいろいろな知識が必要な仕事だと考えました。そして、いろいろな人と会話をし、その人の思っていることに気づいて行動できる力や付けないといけないことをききとらし、自分のことだけでなく、周りの人のこともよく考える人になりたいです。そして、美容師になれるように、努力を続けていきたいと思っています。

調べたこと・調べた方法

仕事内容

なる方法

大変なこと

やりがい

考え

今後の展望

全体のつながりがよく、考えを支えるやりがいと明確に示した、読み手に分かりやすい文章であった。

<交流>

S児の単元終了後の振り返り（資料㉑）には、友達の調査報告文から学んだことや自分が文章を書き挙げたことへの達成感にあふれている。

○ 書くことの実践を通して

前述の実践の言語活動は、低学年は生活文、高学年は調査報告文であった。それぞれの実践の重点化した指導内容は次の通りである。

【単元の振り返り】
 社会人講話に行ったり、いろいろな仕事を担当したりして、将来の目標ができた。振り返りを通じて、自分の目標が達成されたことを振り返り、今後の目標を立てていくことができた。

学年	文種	重点化した指導内容と深めたい考え	手だて
低 (2年)	生活文	(取材)今と過去の自分を比べて、成長したと思うことを集めること。 (構成)「はじめ—中—おわり」の簡単な組立を考えて書くこと。	生活科との関連(体験)・ 2つのサンプル文の比・ メモ・色つき付箋 等
高 (6年)	調査 報告文	(取材)目的や意図に応じて調べた事柄を整理すること (記述)自分の考えを明確にして、その考えを伝えるために、事実と感想、意見等を区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 引用したり図表やグラフなどを用いて書いたりすること。	総合的な学習の時間との 関連・サンプル文・構成 表・相互交流 等

以下の系統性がみられる。

・取材の段階で、低学年では成長したと思う事柄を集めることに重点を置いている。高学年では、集めた事柄を目的や意図に応じて整理することに重点を置いている。

・構成・記述の段階で、低学年では、サンプル文を基に、自分の成長を伝える簡単な組立で文章を書くことに重点を置いている。高学年では、目的や意図に応じて構成や記述を見直したり、資料を引用したりすることに重点を置いている。

また、以下の共通点がみられる。

・文種の特徴をしっかりとらえるために、導入の段階でサンプル文を提示した。これによって、児童が見通しをもつとともに、関心を深めて取り組むことができた。

・文章を書く意欲を高め持続させるために、他教科と関連付けた単元設定を行った。これによって、他の教科の時間に本単元と兼ねて取材活動を行うなど、意欲の持続につながった。また結果的に、時間の短縮もできた。

・各段階で、目標にあった指導の焦点化を図るために、サンプル文を効果的に用いた。サンプル文を読み、話し合う活動を行うことによって、サンプル文から得られた書き方や内容などのポイントをクラス全体で共有化し、各段階で自分の文章を書くための活動の際に生かすようにした。児童は、各段階でそのポイントをもとに書き進め、達成感を感じられる文章を書くことができた。

このような、系統性、共通性を取り入れた実践を行うことによって、児童は、自分の考えを形成しながら文章を書くことができた。

(4) 書く力を生かした読むことの実践から

○ 中学年での実践（第4学年 感想文）

① 単元「本のリーフレットを書いて、感想を伝え合おう」

C群

② 文種の特徴および重点化した指導内容

<感想文>
 特質: 見聞きしたことや経験したこと, 調査・研究を行ったことなどの状況や結果について, 客観的な事実をもとに考えをもち, 特定した読み手に分かりやすく報せる文章である。
 重点化: 単元を通して, 登場人物の性格や気持ちを想像し, 物語を読んで感じたことを自分の経験と結びつけたり, 自分と友達の感じ方の違いをとらえたりしながら読む力を身に付けていくこと

③ 目標

国語への関心・意欲・態度	○ 自分の体験と重ね合わせながら進んで物語を読み, 感想文を書こうとする。
書く能力	◎ 登場人物の性格や気持ち, 体験を自分の経験と結び付けて読むことができる。 ◎ 読んで考えたことを発表し合い, 一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。
言語についての知識・理解・技能	○ 必要な語句について辞書を利用して調べることができる。

④ 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ 自分の体験と重ね合わせながら物語を読もうとしている。	・ 会話文から分かる人物の気持ち, 行為から分かる人物の気持ちを指摘している。 ・ 地の文などから人物の人柄について考え, 整理している。 ・ 物語を読んだ感想を交流し, 一人一人の感じ方の違いに気付いている。	・ 一人称で書かれている作品の特徴について気付きながら読んでいる。

⑤ 単元の指導計画 (総時数 10 時間)

- ② サンプル文と既習学習の感想文を読み比べ, 本単元を設定し, 学習計画を立てる。
 (1) 既習教材「ごんぎつね」の感想文と読み比べ, 単元を設定する。
 (2) サンプル文を読み, 物語の読み方について話し合い, 学習計画を立てる。
- ⑥ 「三つのお願い」や「お気に入りの一冊」について, 新たな気付きや自分と似ている部分を見つけ, 「感想文の種」を集める。
 (1) 「三つのお願い」を読んで, 初読の感想を書き交流する。
 (2) 「三つのお願い」で, あらすじをとらえ, 「お気に入りの一冊」のあらすじを書く。
 (3) 「三つのお願い」で, 地の文や会話文, 行動など, 登場人物の様子について記述されているところを読み, どんな人物かを想像する。さらに, 同じ観点で「お気に入りの一冊」について読む。
 (4) 登場人物の行動や気持ちから感じたことについて, 自分の体験と結び付けて読む。
 (5) 「三つのお願い」を読んで集めた「感想文の種」の中から, 伝えたいこと(一文)を選び, その理由を明確にしながらか成する。
 (6) 書き出しや表現を工夫して「三つのお願い」での感想文を書き, 友達と感想文を読み合う。
- ② 「お気に入りの一冊」について, 感想文を書く。
 (1) 選んだ本を再読し, 伝えたいこと(一文)を決めて, 感想文を構成する。
 (2) 紹介リーフレットの部分を下書きし, 友達同士で感想文を読み合い, 学習のまとめをする。

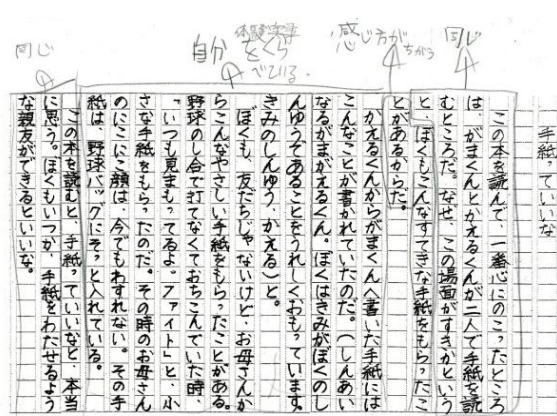
⑥ 指導の実際 (書く力を生かした読み)

ア 目的・相手・価値などを意識づけた単元設定の工夫

【着眼3-①】

単元を通して, 登場人物の性格や気持ちを想像し経験と結び付けたり, 感じ方の違いをとらえたりしながら読む力を身に付けるために, 以下の手だてを工夫した。

・ 導入では, 「感想文の特徴と書く内容を理解し, 伝えたいことの根拠を明確にするために読む」という目的や見通しをもつことができるようにするために, サンプル文(資料②)と事前に既習単元で書いた感想文を読み比べて, 内容の違いについ



資料 22

て話し合う活動を設定した。

・終末では、完成した紹介リーフレットを友達や3年生に読んでもらう活動を位置づけることで、目的や相手・価値意識を明確にもたせるようにした。

イ 文種に応じて効果的に読むための手だての工夫

【着眼3-②】

感想文の内容や表現形態を知り、読むことに生かすことができるようにするために、以下の手だてを取った。

・「三つのお願い」と「お気に入りの一冊」について、「感想文の種」を集めることができるようにするために、次の3観点に沿って何度も読み返した。

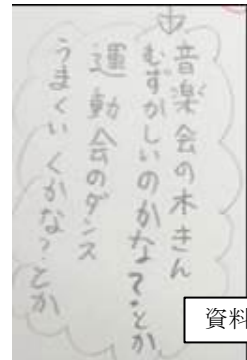
- ①全体のあらすじをとらえる。
- ②心に残った場面、登場人物の性格や気持ち、行動を選び、その根拠を明確にする。
- ③自分の体験と照らし合わせる。

ウ 重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて読み適切に書くための手だての工夫

【着眼3-③】

・伝えたいことと中心とその根拠を明確にするために、読み取り用ワークシートに、「三つのお願い」と「お気に入りの一冊」を読んで、想像したことや自分の体験を「感想文の種」として書くようにした(資料⑭)。

・サンプル文を基に、「感想文の種」を整理し、伝えたい中心を決め、自分の体験を入れて書き進めた。「三つのお願い」や「お気に入りの一冊」を繰り返し読みながら、書き進める姿が見られた。



資料23

エ お互いのよさ、よりよい表現を認め合い次への意欲へつなげる交流活動の設定

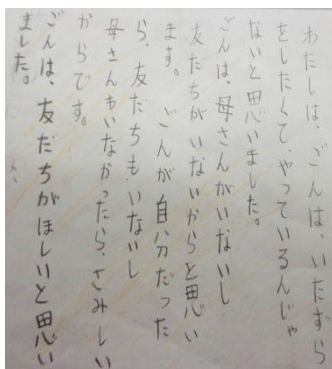
【着眼3-④】

互いのよさを認め合うことができるようにするために、次の3つの観点を確かめ、感想文を読み合う交流活動を設定した。

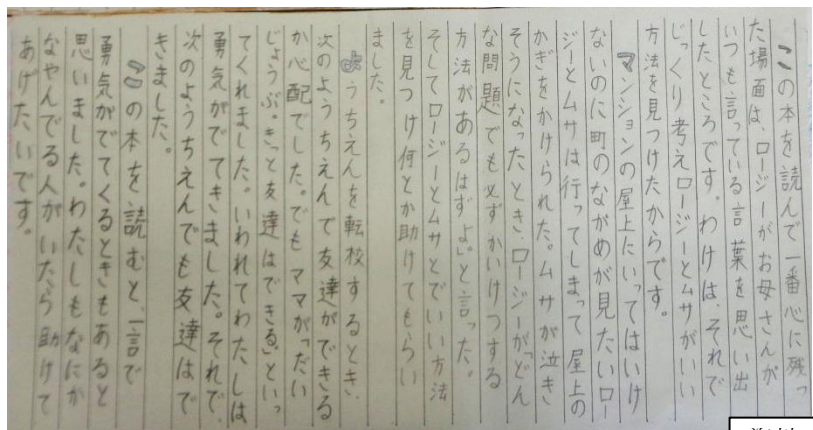
- ①自分が読んだ時だけでは、気付かなかった作品のよさ
- ②お互いの感じ方の違い
- ③伝えたいことと中心がよく分かるか

○ 本実践を通して

資料⑭は前単元で書いた感想文、資料⑮は本単元で書いた感想文である。感想文の行数や内容等、違いは明らかである。



資料24



資料25

読むことの単元の終末に、書く言語活動を位置付けたことによって、物語を繰り返し読む姿が見られた。これは、課題設定の段階で、感想文の特質を明確にし、感想文を書く見通しをもったことに効果があったと考える。

7 児童の変容

下の表は、各学年の観点別の3段階評価の6月と12月の平均値の比較である。低・中・高学年のまとまりごとに、同じ観点で評価を行った。(観点の詳細は別添資料参照) この結果から分かることは、以下の通りである(資料⑳)。

資料26

学 年	1 年			2 年			3 年		
	6月	12月	伸び	6月	12月	伸び	6月	12月	伸び
調査月	6月	12月	伸び	6月	12月	伸び	6月	12月	伸び
取材設定	1.8	2.2	0.4	1.9	2.1	0.2	1.4	1.9	0.5
取 材	1.8	2.1	0.3	2.0	2.1	0.1	1.3	1.7	0.4
構 成	1.7	1.8	0.1	1.9	2.4	0.5	1.3	1.6	0.2
記 述	1.7	1.9	0.2	2.0	2.1	0.1	1.2	1.4	0.2
推 敲	1.7	1.8	0.1	1.9	2.0	0.1	1.4	1.6	0.2
交 流	1.2	2.0	0.8	2.0	2.2	0.2	1.3	1.7	0.4
学 年	4 年			5 年			6 年		
調査月	6月	12月	伸び	6月	12月	伸び	6月	12月	伸び
取材設定	2.1	2.2	0.2	1.6	1.7	0.1	1.8	2.1	0.3
取 材	1.9	2.1	0.2	1.3	1.7	0.4	1.8	2.1	0.3
構 成	2.0	2.1	0.1	1.2	1.6	0.4	1.8	2.1	0.3
記 述	1.9	2.1	0.2	1.2	1.6	0.4	1.7	2.0	0.3
推 敲	2.0	2.1	0.1	1.2	1.7	0.5	1.6	2.0	0.4
交 流	1.8	2.1	0.3	1.3	1.5	0.2	1.7	2.0	0.3

- ① 全体的に、どの表現過程の数値にも伸びがみられる。
- ② 低・中・高学年のまとまりでみると、上学年(2・4・6年)の方がポイントは高い。
- ③ 伸びに関しては、学年で重点化した項目にみられる。

以上から、全体的に、仮説実証のための着眼に掲げた手だてが有効であったと考える。②に関しては、国語科はそれぞれの指導事項を2年間のまとまりで指導するため、上学年に力が身に付いていると考える。③に関しては、指導事項の重点化が顕著に現れている。例えば、1年では交流を重点化した指導、3年では課題設定と取材を重点化した指導を行ったところ、それぞれ大きな伸びがみられた。

つまり、1年目で重点化した指導を繰り返し行うことによって、2年目では習熟や定着がなされると考えられる。この傾向は、過去3年間も同様な結果が現れた。

8 研究の成果と今後の課題

【着眼1】児童の生活や他教科等及び「読むこと」の領域との有効な関連を考えた年間指導計画を作成する。

児童の生活や他教科等及び他領域である読むこととの関連を強化したことで、意欲や課題意識をもとに単元設定を図り、児童が主体的に取り組むことができた。また、文種の特質をとらえ、学年全体の学習を見直したことによって、系統的な指導ができた。教師が、各学年の指導内容のつながりを把握し、各教科等や実生活で活用するという意識をもって指導したからだと考える。

読むこと領域との有効な関連を図ったことによって、児童の意欲をかき立て、双方のねらいを達成する指導をすることができた。しかし、時間の短縮や無駄の無いカリキュラム作成までには至っていない。

今後、さらに他教科・他領域との関連を図り、書くことを中心とした国語科学習全般の力の向上を目指していきたい。

【着眼2】目的に応じて読み、書くことに生かす単元の構成を工夫する。

過去3年間の研究実績を基に、文種に応じた指導の工夫を図ってきた。本年度は、さらに、読むこととの関連を図り、A群・B群・C群の単元構成を設定した。

A群では、サンプル文を読み、文種の特徴をとらえ、それを生かして書くという単元の構成を工夫した。B群では、読むことの教材文を読み、教材文の特徴をとらえた後に自分の文章に生かすという単元の構成を工夫した。C群では、既習の書く力を生かして教材を読むとともに、書く言語活動を読みを生かすような単元の構成を工夫した。

どの単元でも、児童自ら文種の特徴をとらえるだけでなく、どんな考えを伝えるかという書く内容に応じて、教材文やサンプル文を適切に読む姿が見られ、効果があった。

今後、これまでの書くことの研究を踏まえ、読み書きの関連等も探りながら、書く力を高める単元構成の工夫を図りたい。

【着眼3】児童が自分の考えをもち、相互に考えを深めて適切に書くための手だてを工夫する。

【着眼3-①】書く目的・相手・価値などを意識づけた単元設定の工夫

題材を、児童にとって身近で具体的なものに設定することによって、児童は目的・相手・価値を明確に理解し、意欲的に取り組むことができた。実践事例から、「校長先生や1年生時の先生に、自分の成長を伝える」「保護者にメッセージをもらい、タイムカプセルに入れる」など、実生活と関連した題材を見出していることが分かる。このような題材設定は、児童の興味関心を事前に引き出し、表現意欲を高めていくことができると考える。

その際、年間指導計画は大変重要である。常に見直していくことが必要である。

【着眼3-②】文種に応じて効果的に読み、書くことに生かすための手だての工夫

本年度の研究の多くの手だての中で、以下のものが特に有効であった。

・摘読、並行読み、付箋の活用

取材の段階で、多くの資料や本から書く事柄を集める際、目的や書く内容に応じて必要な事柄を選ぶことができた。また、事柄を付箋に記録する際、色分けしたことによって、どんな事柄が集まっているかを把握できた。

・比べ読み

構成や記述の段階で、サンプル文を提示する際、指導事項が含まれているものとそうでないものの、2つを提示し、違いを話し合う活動は効果があった。児童各自が気付いた違いをクラス全体で話し合うことによって、サンプル文から得られる書き方のポイントをまとめ、全体で共有化することができた。

・相互交流の活動設定

構成や記述の段階で、自分の構成や文章について説明したり、友達の文章を読んでアドバイスし合ったりすることは、文種にあった書き方をする上で有効であった。

【着眼3-③】重点化した指導内容に応じて、自分の考えを深めて読み、適切に書くため

の手だての工夫

考えを深めるために、各表現過程で、次の手だてが有効であった（資料⑳）。

資料 27

学年 過程	考えを深めるための手だて					
	課題設定	取材	構成	記述	推敲	交流
低	サンプル文 しょうかいカード	メモ	サンプル文 くみたてシート	サンプル文	ふりかりカード	よかったよカード
中	サンプル文 マッピング	取材シート 付箋	サンプル文 組立シート	サンプル文	ふりかりカード 見直しカード	付箋
高	サンプル文 イメージマップ	付箋	サンプル文 構成表	サンプル文	すいこうカード	交流シート

児童が考えを主体的に深めていくには、児童自身が思考の見えるもの、また操作できるものを準備することが重要である。課題設定の段階では、中・高学年では、マッピング等の考えを増やしまとめるワークシートが有効であった。前述の6年の実践では、こころのノートの視点を基に、自分から社会へと考えを広げ、深めていくことができるワークシートを工夫した。取材の段階では、思考を整理するのに、取材シートや組立シート、付箋等は、全学年で有効であった。自分の伝えたい中心を明確にできた。記述の段階では、サンプル文を活用し、それまでの自分の考えとサンプル文を比較することによって、再取材したり再構成したりする姿があった。推敲・交流の段階では、自分の考えを振り返る観点を明確にするために、振り返りシートや交流シートが有効だった。

【着眼3-④】お互いのよさ、よりよい表現を認め合い、次への意欲へつなげる交流活動の設定

単元終末に、交流の活動を設定したことで、児童は、書いたことへの成就感、達成感をもつことができた。交流する際には、観点を明確にし、観点を基によさを認め合うようにしたことによって、次時や次単元の意欲へとつながった。また、次の活動時に、その表現を生かして取り入れるようになり、さらによりよい表現へと高まっていった。

今後は、児童の評価力をさらに高めて、助言の言葉を増やし、有効なアドバイスを行うようにしたい。

9 おわりに

本校は4年間「自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる国語科学習指導」を研究主題として、書くこと領域を中心に学校全体で取り組んできた。年間指導計画に基づく指導の重点化を図りながら授業実践を積み上げ、指導改善を繰り返してきた。

この4年間の研究の成果と課題をもとに、学校大好きオンリーワン事業推進校として、これからも北九州市の学力向上に資する国語科学習指導の研究をさらに続けていきたい。